



世田谷区
SETAGAYA CITY

世田谷地域 タウンミーティング

～より良い地域づくりを考える～



6月～9月

Step 01

車座集会

世田谷地域内の7つの地区で開催。
計 174名が参加。



反映

タウンミーティング

11月

Step 02

- 車座集会で出た意見
- (仮称)地域経営方針素案

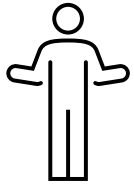


反映

(仮称) 地域経営方針

車座集会での各地区の意見紹介

池尻まちづくりセンター

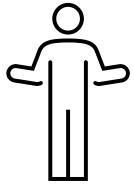


町会活動は高齢者ばかりで、若年層の方には入ってもらえない状況だ。行政の色々な依頼が町会長に回ってきて様々な会合への出席など大変である。このような状況で町会が組織として回らず、これまで行ってきた町会活動ができなくなってきている。



中高生が職場体験できるような施設が地区内にあると、将来働くイメージが湧きやすい。また普段は児童館やプレーパークで活動しているが、これら以外でも伸び伸びと遊べる外遊びの場をもっと増やして欲しい。

太子堂まちづくりセンター

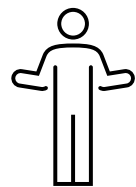


地域活動を活性化させるには、大学生や子どもの力が必要。大学生は、三軒茶屋のまちに学習のために来るだけでなく、地域清掃やスマホの使い方支援など、まちが求めていることに貢献できる。また、子どもが参加すれば親もついてくるので、若い世代の参加も増える。



柔軟な発想で、地区の活性化を考えてみるのはどうか。例えば、246号線を挟んで、三軒茶屋と三宿の間で南北に行き来する経路は大学前の歩道橋しかなく、災害時の避難や買い物を含めた人の行き来が課題になっている。高速道路の高架下に歩道があってもいいし、公園があってもいいのではないか。

若林まちづくりセンター

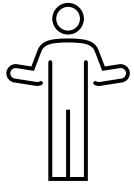


災害への備えとして、避難行動要支援者に対する区の取組みをもう一步進めて、生活支援物資の準備など具体的な支援策の課題がある。また、防災訓練を実施しているが、若い世代の参加率が低く、年齢層に偏りがある。災害時には防災訓練への参加の有無で、認識や理解に違いが生じ、自助、共助の面で課題になるのではないか。特に若い世代の地域活動への参加について呼びかけたい。



町会・自治会と若い世代との連携について、SNS(いちのいち)を活用しているが、なかなか広がらない。町会だけでなく地域を巻き込んだ独自のポータルサイトを作っていきたいので、支援をお願いしたい。

上町まちづくりセンター

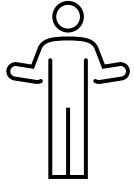


多世代交流・学習支援・子ども食堂の活動を行うにも場所の問題が常にある。地区会館を利用しているが、飲食が禁止されていたり、活動場所が増えるよう支援してほしい。



防災に関する予算の振り分けについて、現状各避難所ごとに必要な活動物品に使える予算が少ない。また町会ごとに防災の予算は振り分けされているが、避難所への振り分けが難しい。それらを助成金制度にしたり、分配をまちセンに任せるなど、まちづくりセンターの強化となるようにしてほしい。

経堂まちづくりセンター

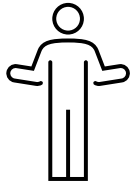


最も多くの世田谷区民に災害の発生を知らせて避難を促す情報伝達の手段は何か。今後、情報伝達の面で、経堂地区がより多くの区民を避難させて死傷者を減らすためにはどのような手段があるか。



まちづくりセンターを中心にいろいろな意見を聞きながらやっていくという事は良い事だが、区民センターでも住民の声をくみ取れる方法や、情報を受け取れる場所を作ってほしい。

下馬まちづくりセンター

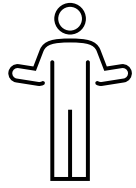


大規模集合住宅は、日頃から町会とのつながりが少なく、避難行動要支援者の支援など、災害時の連携が取りにくい。
自主的な組織として活動するよう、行政がバックアップをしてほしい。



まちづくりセンターが中心となり、地域の課題解決や地域資源の開発など総合調整を行っている。また、人と人をつなげるためには、あんすこや社協など横ぐしを入れて、これまで以上に地域とつながる仕組みなど、対応することが必要。

上馬まちづくりセンター



マンションが建って新しい人が引っ越してくるが、入れ替わる一方で地域の人がわからなくなっている。聴覚が不自由なため、防災のこと、清掃のこと、消防のこととか話を聞きたいが、高齢者の人も少なくなり寂しい状態だ。どういう風に生活していいかわからない。



災害時の横断的な連絡体制の整備が必要だ。自分の住む区域は木密地域だが、地元の町会には防災無線もない。災害では、人命救助は消防より地域住民の活動によるところが大きく、区には地域内や地域と区をつなぐ連絡体制を強化してほしい。

テーマ別の意見交換

発言にあたってのお願い

- ・ テーマについて発言されたい方は、まず、挙手をお願いします。
- ・ 指名は、区長よりさせていただきます。
- ・ 指名された方は、マイクをお持ちしますので、お名前をおっしゃってからご発言ください。
- ・ ご発言は、1回につき3分以内でお願いいたします。
- ・ 「1分前」のお知らせを掲げましたら、お話をまとめていただきますようお願いいたします。時間になりましたら「終了」のお知らせをいたします。

世田谷地域の特徴

世田谷地域は、区の東部に位置し、地域内に区役所があり、区の行政上の中心となっています。区内5地域のなかで最も人口が多い地域です。都心から近く、流出入率の高い20代から30代の単身世帯が多いという特徴があります。三軒茶屋など、駅を中心に発達している商店街では、にぎわいを見せています。また、古くからの木造住宅密集地域では、防災性の向上をめざし、市街地の不燃化等の整備を進めています。



(仮称)世田谷地域経営方針 (素案)

- 世田谷の歴史と文化を大切にし、交流とにぎわい、活力のあるまち
- 安心して豊かな気持ちで暮らせるまち
- 災害に強く安全で、いつまでも住み続けたいまち



地域防災力の向上



令和5年9月11日開設 避難情報や避難所の開設情報など様々な情報や、
平時においても日頃からの備えに役立つ情報を掲載

被害想定

新型コロナウイルス感染症による生活様式の変化をはじめ、東京都は最新の知見等を踏まえた首都直下型地震等による東京被害想定を新たに行い、令和4年5月25日に公表されました。（約10年ぶりの見直し）

世田谷区の新たな被害想定

- ①被害を受ける建物棟数の想定は、25,757棟（▲2,044棟）
- ②停電率は18.9%（▲0.5%）
- ③上水道の断水率23.2%（▲7.6%）
- ④下水道管きよ被害率は5.6%（▲19.1%）
- ⑤避難所で避難生活を送る者（避難生活者）は、発災1日後は151,290人、4日～1週間後は168,224人、1か月後は52,374人となっている。

※発災1日後の避難所避難者数の大幅な減少についてい・・・減少した理由として都民アンケートに基づく各家庭の飲料の備蓄状況を反映したこと等が考えられる。なお、4日目以降の避難所避難者数については、断水率の見通しや、家庭の備蓄が費えることなどを考慮し、1日後よりも増加すると試算されている。

避難生活者の想定と世田谷地域の人口等

1. 避難所で避難生活を送る者（避難生活者）の想定（全区）※再掲	
発災1日後	151,290人
4日～1週間後	168,224人
1か月後	52,374人

2. 世田谷区の避難所	
指定避難所（全区）	95か所
指定避難所（世田谷地域）	26か所

3. 世田谷地域の人口と世帯数（令和5年4月1日現在）	
人口	252,760人
世帯数	144,798人

在宅避難のすすめ

① <small>いっとき</small> 一時集合所	危険回避のために一時的に集合して様子を見る、または、避難のために一時的に集合するところで、区内に約 490 か所指定されています。
② 広域避難場所	火災の延焼などにより自宅、一時集合所が危険な状態になった場合に避難する場所です。区内外 24 か所を指定しています。

余震が収まり火災などの危険がないことを十分確認して

自宅の安全を確認

自宅が安全である

在宅避難

被災していない家族、
親族、知人への連絡が
取れる

縁故避難

自身で被災していない
宿泊施設を確保できる

自主避難

火災や倒壊によって
自宅で過ごすことが
できない

指定避難所

避難所に行くことだけが避難ではありません

避難所はスペースや備蓄が限られており、環境の変化などによって体調を崩す人もいます。また、過密状態になると感染リスクも高まります。自宅で生活できる状況であれば、**在宅避難**をしましょう。そのために、日ごろから住宅の耐震化や家具の転倒・落下・移動防止を行い食料や水など必要なものを備えておくことが大切です。また、自宅に被害がある場合でも、被災していない家族や親戚、知人の家に避難する**縁故避難**や、被災していない宿泊施設を自身で確保して避難する**自主避難**という方法があることを覚えておきましょう。事前に話し合いや情報収集をしておくことが重要です。

指定避難所は自宅での居住継続が困難な場合、または二次災害を受ける可能性のある場合に一時的に受け入れ、保護するための施設です。



建築物の不燃化の取り組み

区では、東京都の不燃化特区制度を活用し、「延焼による市街地の焼失率がほぼゼロになると言われる不燃領域率70%の達成」を目指し、建築物の不燃化を推進しています。

●世田谷地域の不燃化特区対象地区（世田谷総合支所管内）

【太子堂・三宿地区】

太子堂二・三丁目、三宿一・二丁目、池尻四丁目24番～39番

【太子堂・若林地区】

太子堂四・五丁目、若林一丁目、若林二丁目1～36番

【区役所周辺地区】

若林三・四・五丁目、世田谷三丁目20～26番、世田谷四丁目、宮坂二丁目1番の一部、2～9番、26番、27番

世田谷地域における活動例

●パンフレットの作成

まちづくりセンターごとに「在宅避難のすすめ」や防災に関するパンフレットを作成し、避難所運営訓練、防災塾、回覧などで周知を行っている。

●防災情報の共有

若林3・5丁目の各ネットワークでLINEを使って、指定避難所のことや防災知識・在宅避難の呼びかけについて定期的に情報発信をしている。また、防災活動のイベントについても情報を発信している。

●事業所との連携

松丘町会（上町地区）では、オークラランド住宅公園・ポルシェ・東京スバル等6つの事業所と災害発生時に一時避難場所として利用させてもらえるよう覚書を結んでいる。

世田谷地域 タウンミーティング テーマ(2)



多世代がつながる、地域の活性化の取り組みと地域にある資源(人、物、場)の活用について

世田谷地域における活動例

●地域交流ラボ

世田谷地域にある大学と7つの地区のまちづくりセンターとのマッチングを行い、管内の5つの大学の学生がまちの方々との交流を通じて地域の理解を深める事業として実施している。

●三宿・池尻まちこま会

「まちの困りごとを考える会」として、テーマごとに地域住民や関係者と話し合う機会を設けています。まちこま会の意見から地域交流を目的とし、三宿・池尻地区にお住まいの方から作品を募集し「池尻・三宿まちなか作品展」を実施しました。

世田谷地域における活動例

●移動販売

買い物支援として、セブンイレブン駒留通り店の移動販売車が都宮桜1丁目アパートで販売を始めました。買い物ついでに気楽な仲間づくりや交流ができるよう、アパート集会室を利用し、社会福祉協議会デジタルボランティアを中心にスマホ講座を開催しました。

●こども天国

小田急コルティの協力をいただき、親子が気軽に立ち寄れ、遊べる居場所づくりを目的とした外遊びイベントを実施しました。

●まちなかクリーン作戦

上馬地区内を散策しながら落ち葉やゴミを拾って歩くボランティア活動。町会のほか保育園や地区内団体、事業所からの協力を得て参加人数も増加中。地域の応援もあり、多世代交流にもなっています。

世田谷地域における活動例

●活動の場の確保

地区で働き、学ぶ「人」や、民間事業所等の多様な「場」の確保のため、地区の資源を最大限に活用するように働きかけ、イベント等の開催や地域活動のスペースを借用するなど、区民、民間事業所、大学等との協働と協働して取り組んでいる。これまで、SOMPOケアいきガイドせたがや、「スペース ココカラ。」、くらしの友城西営業所会議室などのスペースを借用し事業を行ってきました。

●ボッチャ交流会

若林地区で「障害理解の促進、多世代交流の促進、地域住民同士の交流の場」を目的として、ボッチャ交流会を開催している。子どもから高齢者まで多くの方に参加している。